

平成28年第14回

荒川区教育委員会定例会

平成28年7月22日

於)特別会議室

荒川区教育委員会

平成28年度荒川区教育委員会第14回定例会

1 日 時 平成28年7月22日 午後1時30分

2 場 所 特別会議室

3 出席委員 委 員 長 坂 田 一 郎
委員長職務代理者 高 野 照 夫
委 員 小 池 寛 治
委 員 小 林 敦 子
教 育 長 高 梨 博 和

5 出席職員 教 育 部 長 阿 部 忠 資
教育総務課長 山 本 吉 毅
学 務 課 長 相 川 隆 史
指 導 室 長 小 山 勉
生涯学習課長 北 村 美 紀 子
複合施設準備室長 堀 裕 美 子
図 書 館 課 長 田 窪 和 美
書 記 稲 富 泰 輝
書 記 中 村 栄 吾
書 記 湯 田 道 徳
書 記 宮 島 弘 江

(1) 審議案件

議案第23号 平成29年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について

(2) その他

委員長 ただいまから、荒川区教育委員会第14回定例会を開催いたします。

出席委員数のご報告を申し上げます。本日5名出席です。

会議録の署名委員は小林委員及び小池委員にお願いします。

教育長、あいさつをお願いします。

教育長 本日は審議事項1件となっておりますが、そのほかにも机上に用意させていただきましたように、小学生が全校で行っております防犯マップづくり等についての御説明をさせていただきますたいと思っております。

また、先生方には各学校への御視察や行事等への御出席を賜り、小中学校、幼稚園の事業に御協力いただき、激励をいただきありがとうございます。おかげさまで1学期も終了いたしました。夏休みに入っておりますけれども、子どもたち、一生懸命1学期勉強をできたと思っております。どうぞ、本日の教育委員会よろしくをお願いいたします。

委員長 ありがとうございます。4月8日開催の第7回定例会及び4月22日開催の第8回定例会の会議録につきましては、前回の定例会にて配付し、この間、確認をしていただきました。本日、委員から意見等がなければ承認としたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 それでは、承認といたします。

それでは、本日の議事日程に従いまして議事を進めます。

本日は審議事項が1件です。初めに、議案第23号「平成29年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について」を議題といたします。

事務局より議案の説明をお願いいたします。

指導室長 それでは、議案第23号「平成29年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について」、提案をさせていただきます。

提案理由でございます。平成29年度に使用する、荒川区立小学校及び中学校の特別支援学級で使用する一般図書を採択していただくものでございます。

内容でございます。平成29年度荒川区立小学校及び中学校の特別支援学級で使用する一般図書として、各学校が教科種目ごとに児童、生徒の実態に応じた教科用図書を調査・研究いたしまして、その結果を受けて、教育委員会において採択していただくものでございます。

後ろにつけさせていただいているリストが、選定、採択していただく図書のリストでございます。小学校は76冊、中学校は29冊でございます。

平成29年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択につきましては、小中学校の特別支援学級で特別な教育課程を編成する場合は、学校教育法附則第9条同法施行規則139条

の規定によりまして、教科により当該学年用の文部科学省検定済の教科用図書を使用することが適当でないときには、当該学校の設置者の定めるところにより、他の適切な教科用図書を使用することができるということになっております。

特別支援学級で使用する教科用図書は、いわゆる「一般図書」と呼ばれておりまして、本区におきましては東京都教育委員会が作成しております平成29年度使用特別支援教育教科用調査研究資料及び平成29年度用一般図書一覧から、各学校が使用する一般図書を調査・研究することとなっております。

東京都においては、この冊子にある一般図書については十分な調査・研究を行っており、本区で使用する一般図書においても、都立特別支援学校で使用する図書と同じものを使用することにより、各特別支援学級の児童・生徒の状況に応じた、実態に応じた適切な図書を採択することとなります。

本日は、各学校が調査・研究した一般図書、「平成29年度荒川区立小学校特別支援学級で使用する一般図書の調査のまとめ」及び「平成29年度荒川区立中学校特別支援学級で使用する一般図書の調査のまとめ」として、紙面で報告させていただきます。御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

委員長 ただいまの説明について、御質問、御意見はございますでしょうか。

教育長 これは、毎年こうやって採択していますよね。今年から加わったという図書はありますか。

指導室長 今年度から新たに調査・研究して加わったものでございますが、小学校のまとめ（1）の中では、国語の東洋館出版「くらしに役立つ 国語」、書写に関しましては一番下にございますあかね書房の「もじのえほん かんじ」。まとめの（2）に参りますと、社会科で戸田デザイン研究所「にっぽん地図絵本」、「せかい地図絵本」。算数に関しましては童心社の「かずのえほん 0から10までのたしざんひきざん」、理科に関しましては学研マーケティング「ふしぎ・びっくり!? こども図鑑8 きせつ」、講談社「米村でんじろうのDVDでわかる おもしろ実験!!」。まとめの（3）に移りますと、生活科でگرانママ社「ぼくとわたしのせいかつえほん」、ひかりのくに「202シリーズ たべもの202」、音楽でございますとあかね書房「うたってあそぼう えかきうた（どうぶつ）」、図画工作でございますと一番下にございます小学館「あーとぶっく ひらめき美術館第2館」でございます。

続きまして、中学校の方でございます。中学校の方は書写、あかね書房「もじのえほん かんじ」、「もじのえほん かんじ」、太郎次郎社「漢字がたのしくなる本ワーク 漢字の音あそび」、社会でございますと平凡社「はじめましてにほんちず」、理科でござい

ますと小学館「地球環境のための本 マザーツリー」、講談社「米村でんじろうのDVDでわかる おもしろ実験!!」、東洋館「くらしに役立つ理科」、家庭科でございますと「子どもマナー図鑑1 ふだんの生活のマナー」、「子どもマナー図鑑3 でかけるときのマナー」、英語でございますと、大阪教育図書「からだで学ぶ英語教室」、三省堂「英語のゲーム 音で遊ぼう」。以上でございます。

委員長 そうしますと、総体的には中学校の方がもともと採択していたものに比べると、かなり割合的には数が増えていると、そういう理解でよろしいでしょうか。

指導室長 そういうことでございます。

委員長 中学校については、今回、こういう形で大幅に拡充したということについては、現場の実態として、特徴的な要望とかそういったことがあるのでしょうか。

指導室長 具体的に、子どもたちの実態にあわせてより適切に選んでいただいたと考えているところでございます。

また、来年度入ってくる新生が使うということで、その子どもたちのことも考えながら、より広い範囲で選んでくれていると考えています。

委員長 先生方、いかがでしょうか。

小池委員 私は、ちょっとこの制度がよくわからないのですけれども、「一般図書」という表現を使っているけれども、ほかの要するに教科書と同義語だと考えていいのでしょうか。

それから、例えば国語だと四つの出版会社が入っていますね。それは一つの学校においてその四つのどれでも採択していいと。それで一つのクラスの中においても、生徒の実態にあわせて別々のものを使うと。そういうふうな理解でよろしいでしょうか。

指導室長 まず、教科書採択で選ばれている教科書を使うことにはなりますが、子どもたちの実態がございますので、その教科書採択の教科書では難しいとか実態に合わないという場合に、東京都で示されている一般図書の一覧の方から、適切なものを選んで使うことにはなります。

また、この一般図書でございますが、学校の一人ひとりの生徒に対して選ぶことにはなりません。

小池委員 ありがとうございます。

委員長 小林先生、いかがでしょうか。

小林委員 そうですね。一般図書として選定するということなのですが、非常にいい選定かなと思っております。

教育長 これは先ほど小池先生が確認したように、「一般図書」といっても特別支援学級での教科書という位置づけですよね。教科書の無償配布の原則というものがあるではないですか。そうすると、先ほど小山室長から「これは一人ひとりに合った教科書という形で使用するん

ですよ」ということだと、29年度に特別支援学級に在籍するお子さんたちについては、先生とか子どもさんも確認した上で、一人ひとりに合った教科書として、この一般図書を無償で配布するという形になるのでしょうか。

指導室長 1人、1教科1冊ということで、教科書採択で決められた教科書ではない一般図書の場合には、この本が無償配布されることになります。

高野委員 今、各科教科書、1冊ずつ選んで個人に与える。そういう方法も確実な方法だと思います。もう一つ大切だと思うのですが、理科に講談社の「米村でんじろうのDVDでわかる おもしろ実験!!」、DVDでの教育は理科だから適すると思いますが、ほかの科目で特別支援学級の人たちに合うものがあるのでしょうか。

指導室長 理科に関しては、実験の部分がDVDで学習できるものもありまして、このような一般図書がこの調査・研究資料の中にも含まれているものですから、調査・研究して選ばれたと考えてございます。

ほかにもDVDが付いているかどうか、今ここでわからないので、しっかりと調べてまたお知らせしたいと思っております。

高野委員 例えば図画工作なども考えられると思います。一方、教科書とは話題が違いますが、この特別支援学級の教育で、荒川区の子どもたちは学校でタブレットを使いますね。

外国では特別支援学級もコンピュータを中心とした教育をして、非常にうまく教育をしていると聞いています。子どもたちの特性を生かすことができるということです。荒川区の現状と、それから将来どういうふうな考え方を持っているか教えてください。これは大切なことだと思いますので。

指導室長 東京都教育委員会の方から、特別支援教育にあわせたタブレットを使った教材開発を荒川区でやりたいという申し出がございまして、来週の末、都が説明に参ります。本区では汐入小学校で、実際に検証しながら進めていこうと考えてございまして、その検証が終わりましたら、荒川区のすべての特別支援学級でタブレットを使って、その教材で学習できるような準備を進めて行くことを考えているところでございます。

教育長 特別支援学級については、通常の授業で一般的に学習することが困難なお子さんたちにとって、ICTを使った授業が効果的であると考えております。通常のクラスでもなかなか集中力が続かないお子さんたちが、タブレットになると集中してやっているという状況もございまして、特別支援学級でも少しずつ使っている状況です。

ただ、残念なことに、全国的にはまだまだ特別支援学級におけるICTの活用というのが、端緒についたばかりでして、先ほど小山室長から話がありましたように、東京都もぜひ荒川区とともに研究開発したいということではございます。

今後、さまざまな試行錯誤をしながら、どんな形でICTを使うことが効果的なのか、子どもたちの成長にとって効果的であるのかということを検証していきたいと思ひますし、もし日程の都合がつけば教育委員会の開催にあわせて、汐入小学校を御視察いただくことも、今後ぜひ企画してまいりたいと思ひてございます。

指導室長 先ほどのDVDの件でございますが、今、東京都の調査・研究の冊子を見ますと、音楽などではCDが附属して、それを聴きながらというのがあるようでございます。

それから、理科の先ほどのDVDでございますが、実験などがそのDVDにおさまっております。特に電気を使った実験などは若干危険な部分もあるので、そのDVDで見たり、逆にそのDVDをじっくり見ながら安全にやると、そのような形での活用もあるようでございまして、学校で十分それを子どもたちの学習と、それから理科の実験を安全にやれるという部分で使っていきたいという、そのような趣旨で選んだと思ひれます。

委員長 では、よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 それでは、御意見についてはほかにないということで、原案どおり採択することに異議はございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 異議ないものと認めます。議案第23号「平成29年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について」は、原案のとおり採択することに決定いたしました。

予定してありました事項は以上ですけれども、事務局より、連絡事項などがありますでしょうか。

教育総務課長 まず、御手元の日程表でございます。8月12日、次回の教育委員会の定例会につきましては、今のところ特段の案件がございませんので、休会としたいと思ひてございます。

また、成人の日の開催時間は、記載をさせていただきました12時からということでございますので、そちらもよろしくお願ひいたします。また、7月から9月までの教育委員会関係主要行事については、配布のとおりとなっております。

では、学務課長からです。

学務課長 主要関係行事のところにも記載がございますけれども、「小学校下田臨海学園」についてでございます。7月21日から小学校4年生全体の下田臨海学園、それから 番で8月17日から19日の小学校6年生の希望者を対象とした臨海学園の二つ実施いたします。

の方は通常どおり、学校ごとに実施しますもので、昨年度も御報告いたしました。施設のキャパシティの関係上、学校全体が入れないということがあったのですが、このたび増設

園舎はおかげさまで6月下旬に完成いたしましたので、さっそくこの7月21日から4年生が2校から3校一緒に行くという形でスタートしております。

それから、番です。小学校6年生の希望制の部分ですが、ここは制度の変更で、現在の6年生は下田臨海学園に行く機会がなかったものですから、海を経験したいというお子さんについて、希望を募って実施いたします。

今回希望をとりまして、120名のお子さんから手が挙がり、8月17日から19日で実施するという形になっております。現在、おうちの都合などが入りまして、少し数は減っておりますけれども、この人数であれば2泊3日の1行程で実施できるという形になっております。

今回は、各小学校合同14校のお子さんたちが行くということですので、引率につきましても、小学校の校長先生から代表の園長、副園長それぞれ出していただいて、それから、参加する学校からも先生をお1人ずつ出していただくというような形で、合同実施ということになります。

それから、お子さんたちにつきましても学校ごとに人数の偏りもありますので、複数の学校がせっかく一緒に行くということですから、グループも完全に学校の枠を越えてつくっております。

それから、泳力別に遊泳班も作りまして、普段とは違った共同生活を行いながら、海の実験もやっていただくという企画になっております。安全面に気をつけて実施したいと思っております。

指導室長 学校でタブレットPCを活用して、安全安心マップをつくるという御報告を以前の教育委員会でさせていただきましたが、安全安心マップが作成されまして、夏休みの前の指導で、各学校で活用いたしました。

その様子をNHKが取材に参りまして、全国的に放映されましたので、その様子をまず見ていただければと思っております。お願いします。

モデル校は峡田小学校で、校長は瀬下校長でございます。

< 上映中 >

指導室長 ありがとうございます。机の上にタブレットを準備させていただきましたので、実際に操作をしていただいて、どのようなものか体験していただければと思います。

< T P C 操作中 >

教育長 実はNHKでも出たのですけれども、他にも日テレなど民放も取材が入りました。

指導室長 テレビ朝日と日テレと取材に来ていただきました。

教育長 この日テレの方を今流しますので、どうぞ御覧ください。

<上映中>

教育長 以上です。

委員長 荒川区は学区が狭いから、自分の学区だけやっても安全にならないですからね。

指導室長 ありがとうございます。夏休み前に、どの学校でもこれを使って指導に生かしているところでございます。

報告は以上でございます。

生涯学習課長 それでは、御手元に「平成28年度あらかわまるごと子どもミュージアム」をお配りしております。これは夏休みのイベントということで、子どもたち、また親子で楽しめるイベントが掲載されております。

2ページを御覧ください。荒川ふるさと文化館の夏休み子ども博物館ということで、「勾玉づくりにチャレンジ」、また「リトル学芸員」、これは1日学芸員になって学ぶということです。あと「俳句をつくろう!」、「親子で楽しむ展示解説」。

あと「あらかわ職人道場」ということで手描き友禅の井出さんが指導者、講師となります。また「衣装着人形の技でカードケースをつくろう!」というのは竹中さんが講師として、指導します。また、「鍛金の技で銅のしおりを作ろう!」、これは鍛金の福土さんが講師として指導します。

7ページを御覧ください。これは31日の都知事選と同日になってしまいましたが、「荒川コミュニティカレッジ学園祭」をサンパール荒川で行います。また、その隣に「大きな紙ヒコーキを作って飛ばそう」は、東京都立産業技術高等専門学校荒川キャンパスにおいて親子で楽しむということで、きのうから受け付けしているのですが、もうキャンセル待ちということで、多くの申し込みがあります。

また、ACCのイベントが、最後の8ページにございます。「子ども映画会」、「夏休みはエンゲキ!」、「都電荒川線写真コンテスト」等が小中学生の部門ということで募集しております。

続いて、図書館のイベント、よろしく申し上げます。

図書館課長 同じ冊子の3ページになります。図書館で実施するイベントになっております。

夏休みは普段の「おはなし会」ではなく、「科学あそび」ですとか、あるいは体験型として、なかなか普段図書館にあまり来ないお子さんに、まず興味を持ってもらおうという趣旨で、例えば「おさかなをつくろう!」とか、「まんげきょうをつくろう!!」といったイベントを組んでおります。

それから、3ページの右上にあります。普段、図書館は月曜日休館しているのですが、8月最後の2週間は月曜日も臨時開館するということを御案内しているところでございます。

それから、図書館の主催ではないのですが、同じ冊子の7ページの左上に、消費生活センターの「親子くらしの講座」があります。これは場所が南千住図書館で、ちょうどきょうと明日行う講座ですが、こういった形で、ほかの課が主催するイベントに図書館の場所をお貸ししまして、イベントの内容に関係する本も一緒に置いて案内するといったことも行っているところでございます。

図書館からは、以上でございます。

教育長 「科学あそび」とかは職員が教えるのですか。

図書館課長 そうです。普段から、この夏休みに向けて、いろいろ資料や材料を探したりして、職員がやっています。

複合施設準備室長 それでは、私からは「ゆいの森あらかわ・吉村昭記念文学館開館イベント」を実施させていただきましたので、その御報告をさせていただきます。

7月16日にサンパール荒川の大ホールで、講師に橋本五郎先生をお招きし、実施いたしました。開会前に区長あいさつ、議長あいさつ、津村節子先生あいさつ、その後、瀬戸内寂聴先生のビデオ上映をし、橋本先生の講演を行いました。

今回、600人を超える方の申し込みがございましたけれども、実際の参加者は506名というところございました。

講演の概要としましては、橋本先生からは吉村先生の小説を「事実を書くことに徹底した彫刻のような作品」という評価をいただいてきましたし、また、最後の(4)ですけれども、先生が秋田県の御出身の町に、「橋本五郎文庫」というものをつくられておりまして、そこに地域の方が集まるということで、そういった地域の人が集まってくるようなこういった文庫、私どもでいうと図書館のような場所が大変重要だということをお話をさせていただきました。

最後、参加者のアンケートの主なところでございますけれども、吉村先生の作品を読んだことがなかったけれども読んでみたくなったですとか、荒川区のために何ができるかを考えてみたいと思ったと。あとは今度、やはり、ゆいの森あらかわ・吉村昭記念文学館の開館を楽しみにしているという声が大変多く聞かれました。

当日は小池先生にもおいでいただきまして、どうもありがとうございました。

この後、講演で上映した瀬戸内寂聴先生のビデオを見ていただこうと思うのですが、このイベントのためだけにつくったというDVDなのですが、アンケートでも、このビデオがよかったという声はかなり多かったので、違うところにも使ってみようかと思っております。

まず御覧いただければと思います。

小池委員 あのビデオよかったです。もう一ついいなと思ったのは、津村さんの話がなかなかユーモラスでね。

<上映中>

複合施設準備室長 以上でございます。

本来は1時間くらい撮影しているものを編集していますので、残りの部分はまた編集をさせていただきます、それは文学館の中で新たに上映したいと思っております。

小林委員 文学館の中だけですか。すごくいいので、もったいないくらいなので、吉村文学の神髄というか、良さを、これだけの短い時間で紹介したすごくいい映像、ビデオだと思います。

複合施設準備室長 今、瀬戸内先生には、イベントだけで使うということで編集をしましたので、もう一度お話をさせていただいて、ほかで流せるようにしようと思っております。

小池委員 どなたのアイデアか知らないけれども、瀬戸内寂聴さんを引っ張り出したというのはすごいと思っています。いい企画ですね。

複合施設準備室長 ありがとうございます。

教育長 前にも1度サンパールに瀬戸内寂聴さんにいらしていただきました。吉村さん御夫婦と親しいので、お願いをして来ていただいたことがあります。

複合施設準備室長 今回いらっしゃるというお話もあったのですが、やはり御病気の後だということもあって、今回は行けないからとても残念ということでビデオをという話をし、ビデオで出演をいただきました。

小池委員 とてもよかったですよ。瀬戸内寂聴さんのDVDをみんなに見せたというのは、いい企画だなと思いました。

複合施設準備室長 とても94歳とは思えない。

小池委員 思えない。とにかく記憶力なんて、僕なんかよりはるかにいい。

小林委員 そうですよ。ビデオの中で「吉村先生の作品は残りますよ」ということをおっしゃっていて、これは確かにそうですね。

私自身も大学の教育史学のテキストで吉村先生の作品を使います。実際に自分の足で歩いて、非常に綿密な取材をして作品化しているということで、「戦艦武蔵」など非常にいい作品です。そういった本質的なところを御紹介して下さっているビデオです。Youtubeなどで流せないのですか。

複合施設準備室長 瀬戸内先生にお話をさせていただこうかなと思っています。

小林委員 イギリスにいますと、日本の実践はとていいものがあると思うのですが、アピールする力や、情報発信が足りないと思います。

教育長 それは前も指摘していただきましたね。

小林委員 情報発信が、非常に大切と思うことがありまして、その意味ではY o u t u b eとかで、発信していくということが必要なのかなという気がいたします。

高野委員 吉村さんは作品何冊くらいあるのですか。

複合施設準備室長 書簡の単行本になっているようなものと、134タイトルということ
です。

高野委員 読破していないな。戦争ものばかりなのですか。

複合施設準備室長 戦争ものはそこまで多くはないと思います。

教育長 戦争ものは20とか30程度だったと思います。

高野委員 本当に史実に忠実で、ここに書かれているように、「彫刻のような」と書いてある。
すごくきちっとして読み応えがあります。

小林委員 歴史関係者というか、歴史に興味のある人は、これはもう必読だと思います。本当
にすばらしい作品で、研究者などよりも本当にすばらしい。

委員長 彫刻のようなそういう刻み込むような内容でありながら美文というかね。そこがすば
らしいです。

教育部長 あとはエッセイなんかも書いていらして、結構荒川区のことを書いていて、当時の
こととか。それもおもしろいですね。戦争のときの話ですとか。

高野委員 134冊とかすごいですね。

複合施設準備室長 最後の「彰義隊」は、特にそういった意味では、あれ1日で上野戦争が終
わってしまいますので、長く書くにはということで荒川区の方に逃げていくところを思いつ
いたとおっしゃっていますね。

高野委員 上野のお寺に輪王寺の親王が逃げていくところはすごいね。

委員長 ほかに何かありませんでしょうか。

教育長 机上に配付させていただいたのは、きょうの読売に荒川区の学校図書館の整備につい
て七中の図書室の例ですけれども、高く評価するという記事が出ましたので、御参考にして
いただければと思います。

小林委員 先ほどの荒川区の安全安心マップのときに発言すればよかったのですけれども、関
連で発言させていただいてもよろしいでしょうか。

この荒川区の安全安心マップですが、子どもたちがタブレットを使ってやっているわけで、
本当にすばらしい実践です。

まず、安全教育は、今、日本で求められていることを切実に感じております。今まで日本
は世界的に、これほど安全なところはなかったと考えられてきたわけです。しかし、最近

ろいろな情勢の変化がありまして、まさに教育の中で安全教育が非常に求められています。その意味で、こういった安全安心の教育は、非常に大事なことです。これが1点目です。

2点目ですが、子どもたちが実際に地域を歩いて、自分たちの目で確認をしていくことは、自分たちの力で安全を守っていくという意識を高める意味でも重要です。

3点目は、安全安心教育とタブレットを結合させたことは、まさしく荒川区のすばらしい発想です。今、イギリスに短期間滞在しているのですが、タブレット、スマホがないと生活ができない状態です。社会全体がペーパーレスの社会になってきていて、タブレット、スマホをいかに使っていくのかが、日常生活の基本です。その点、日本はまだ紙をたくさん使っていますが、将来的にはペーパーレスの世界になるという意味で、タブレット使用というのは非常に重要です。

以上3点から、この荒川区の安全安心マップは、すばらしい試みだと思います。また、NHKなどの取材が入ったということですが、荒川区のすばらしい取り組みをこういった形で放送していただけたのは、非常にありがたいことです。少し長くなりましたが、以上でございます。

教育部長 安全安心マップについてですけれども、今回、子どもたちが地域を見て、自分たちで危険な場所を探しました。これはこれで、子どもたちが危険回避能力を高めていこうと学習に役立っているのですが、さらに道路公園課だとかまちづくりの部門にも情報提供をして、実際危険な場所をなくしていこうと、そういったことにも力を入れていくことで、地域全体、まち全体を安全安心にしていくことを目的に、今ちょっと連携をして、取り組みを進めようと情報提供を始めたところです。

そのまま放置しないでと、子どもたちが危険だと思うところはやはりなくしていこうと、そういったことも取り組み始めたということです。

小林委員 そうですね。すばらしいですね。

委員長 私もお配りいただいた新聞に一言、上から3段目に「国際関係」の授業で、「生徒は本や雑誌、新聞を読み比べ、一つの事柄にも様々な見方があることを学ぶ」とあるのですが、これは実は大学生とか大学院生でも同じことを言っていて、日本の新聞は結構、例えば共同通信とか時事とか配信されたものをそのまま掲載するので、同じ内容が載っていたりするのですが、実際には物事にはいろいろな見方があるわけで、そういったことを子どもが学ぶというのは、これはやはり非常に重要なことだと思うのです。

ちなみに、例えば日本のサミットについて、日本の新聞と海外の新聞でどんな違いがあるかとか、そういうのも非常に面白いテーマではないかなと。その多面的な見方があるというのは、やはり基本的な力として非常に重要だと思うのです。一方的な意見だけがすべ

てではないということを知ってもらおうというようなことも重要ではないかなと思いました。

他に何かございますでしょうか。

高野委員 タブレットの中を見ますと理由が書いてあるでしょう。「木がたくさんあるところは不審者に連れ込まれそう」とか。これは誰が書いたのですか。

指導室長 それは子どもと警察の方が一緒に回って、子どもたちがその発言をして、学校でまとめてという形です

高野委員 わかりました。まとまっていますね。子どもたちが、人が少ないとか、そういうところのコメントみたいなのを書いたのは。わかりました。

指導室長 子どもが発見したり、思いついたこともたくさん入ってございます。

高野委員 ありがとうございます。

委員長 では、よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして教育委員会第14回定例会を閉会いたします。

了